おーい！くじらぐも

Vol.46　2025 年（令和 7 年）4 月号

発行人：(福) 健翔会　相談支援センターくじらぐも
所在地：埼玉県行田市小見 1141 番地 1
TEL：048-580-3634　FAX：048-554-8814
MAIL：kujiragumo@kenshokai.net
発行責任者：くじらぐも　センター長　細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第 4 号事業所です。

今年度もよろしくお願いいたします。ご相談等お気軽にお問い合わせください。

インクルーシブ遊具をご存じですか？障害の有無や年齢、性別に関わらず誰もが同じ場所で遊べる遊具を言います。
（スロープを付けたりして遊びやすくリニューアルしました）

熊谷市にある熊谷スポーツ文化公園には、インクルーシブ遊具など活動的に遊べる遊具が設置されています。（どちらからでも「のぼる」「すべる」が楽しめる遊具）

「のぼる」「くぐる」「すべる」など多彩に遊べる遊具
県営公園でのインクルーシブ遊具の設置は、秩父ミューズパークに続いて 2 例目だそうです。

『働くこととは？　～必ず誰かの役に立っている～』

くじらぐもの相談内容でも「就労（働く）」のことの相談件数は、とても多いです。単に働くと言っても、一般就労なのか？障害者枠なのか？福祉サービスを利用して働くのか？働くためのスキルを身に付けたいのか？など多数の選択肢があります。そんな中で、くじらぐもが考える「働く」ことについて紹介したいと思います。

みなさんは、なぜ働きますか？自分の好きなものを買うため、旅行に行くため、家族を養うため、自立するため、自分の成長のため・・・。人によって様々だと思います。しかし、最終的には収入を得るためではないでしょうか。

「働く」という意味には「傍（はた）を楽にする」という意味合いがあるそうです。「傍（はた）」とは、周りの人や世の中の人が楽になれるように。「楽にする」は、楽にさせる、楽しませるという意味も込められています。私たちは働くことで、誰かの役に立っていることを忘れてはなりません。わかりやすいところで言うと、サービス業であれば、利用者や消費者の役に。医療や福祉であれば、患者や利用児者の役に。公務員であれば、国民や市民の役に。はたまた製造業や事務職であれば、間接的に誰かの役に立っています。「働く」ことの対価としてお給料がもらえ、自分や多くの人を支えるために税金も払います。

利己主義（自分さえよければいい）が目立つ今の時代ですが、こうして「誰かの役に立っている」「誰かの役に立ちたい」と思いながら、「働く」だけでも、仕事に取り組む気持ちが変わるように思います。

私もまずは、自分が楽しく働き、傍（はた）を楽にさせる、楽しませる気持ちを持ち続けたいと日々感じています。日々勉強です。

＜4 月のトピックス＞

先日、ご利用児の支援者会議が開催されました。このご利用児は、なかなか学校へ行けず、不登校状態が続いていました。そして、少しずつ人に慣れてもらう意味でも、午前中から放課後等デイサービスを利用してもらい、環境を整える時間を設けてきました。家族も、共働きのなか、学校に行けないことで、学力が低下することがないように、手作りでプリント作ったり工夫を行い、頑張ってこられました。

そして、新学期を迎えると気持ちが切り替わったのか、スムースに通学できるようになりました。家族も喜ばれていましたが、急に学校に行けるようになったことから、お母様は「私の今までの頑張りは何だったのだろう？」と話がありました。すると、同席されていたお父様から「おまえの頑張りはみんな認めているよ。ありがとう。」とねぎらいの言葉が。その言葉を聞いたお母様は涙を流していました。「言葉にして伝える大切さ」を身に染みて感じ、ご利用児に対する家族の愛情を改めて知りました。